

I M O 第 4 8 回 航 行 安 全 小 委 員 会 (N A V 4 8) の 結 果 に つ い て

標記会合は、平成14年7月8日から7月12日にかけて、ロンドンの国際海事機関(I M O) 本部において開催されたところ、今次会合における主な審議結果は、以下のとおり。

1 . 現 存 船 へ の V D R 適 用 可 能 性 (議 題 8 関 連)

本議題では、簡易V D Rの現存船への適用可能性を検討しており、論点は、VDRに記録すべきデータ(どのデータを新船用のV D Rから削減できるか)、及び保護カプセル(E P I R Bタイプの浮揚式又は固定式)である。

今次会合では、多くの国は我が国提案を原則支持したが(特に、浮揚式の保護カプセルなど)、さらなる性能面での検討、及び、現存貨物船への適用実績に基づく(コスト面での)分析が必要であるとの認識から、今後とも検討することとなった。

2 . 海 上 保 安 関 連

M S C 7 5 からの指示により、海上保安関連中、今次会合では、保安警報、ロングレンジトラッキングにかかる性能要件等を検討することになった。

保安警報については、インマルサットC、M F / H Fなど現行G M D S S設備の活用(テロ対策用に若干の修正は必要)、または、新規設備の設置が検討された。

ロングレンジトラッキングについては、インマルCが最も望ましいことが合意されたが、インマルCを搭載していないA 1 , A 2 海域を航行区域とする船舶が存在する点も指摘された。

これら検討結果は、9月のM S C 中間作業部会に報告されることとなった。